

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	神崎 稔章	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経済学）	職位	准教授
専門分野	金融論		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b、金融論2、国際金融論
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）銀行と情報技術	
（2）プライベートクレジット	
（3）国際通貨	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R6・R5・R4	
R6	〈論文〉神崎稔章「プライベート・クレジットの興隆と課題」、『尾道市立大学経済情報論集』, Vol.24, No.2, 49-69頁, 2025年2月.
R5	〈論文〉神崎稔章「邦銀のIT投資とその経済的帰結—生産関数アプローチを用いた検討—」(吉田政之氏, 木村文則氏との共著), 『尾道市立大学経済情報論集』, Vol.23, No.1, 63-81頁, 2023年6月. 〈発表〉神崎稔章「邦銀のIT投資とその経済的帰結—付加価値アプローチを用いた検討—」(吉田政之氏との共著), 日本金融学会秋季全国大会(九州大学、福岡)2023年9月.
R4	〈論文〉神崎稔章(2023)「銀行隔離に関する考察—ナロウバンク、リングフェンスを中心に—(A Study of Bank Segregation: Narrow Banking and Ring-Fencing)」, 『尾道市立大学経済情報論集』, 第22巻第2号、2023年1月、31-57頁,
	（1）H30〈論文〉「イギリス短期金融市場と信用」, 『尾道市立大学経済情報論集』 Vol.18, No.1, 29-46頁.
	（2）H30〈論文〉「投資家層と鉄道業の発展」, 『尾道市立大学経済情報論集』 Vol.18, No.1, 47-72頁.
	（3）H30〈論文〉「自然災害に対応するARTの発展と課題(2)」, 『尾道市立大学経済情報論集』 Vol.17, No.3, 89-107頁.
	（4）H29〈論文〉「1980年代アメリカ金融市場の様相—1970年代後半から1980年代前半を中心に—(1)」, 『尾道市立大学経済情報論集』, Vol.17, No.2, 137-158頁.
	（5）H29〈論文〉「自然災害に対応するARTの発展と課題(1)」, 『尾道市立大学経済情報論集』, Vol.17, No.2, 159-171頁.
	（6）H29〈論文〉「多地域への影響を考慮した熊本地震の越境性測定と復興のための金融措置」(岡本隼輔氏との共著), 『尾道市立大学経済情報論集』, Vol.17, No.1, 41-55頁.
	（7）H25〈論文〉「北海道を中心とする地域経済と地域金融」, 『金融構造研究』, (35) 23-36頁(2013).
	（8）H24〈論文〉 An Analysis of the Saving and Investment Balance in Hokkaido from the Perspective of Long-term Data, Springer, pp.25-42, Vol. 9, (2012).
	（9）H23〈論文〉 On the behavior of money flows on the real side and the financial side in Hokkaido prefecture, CBC Discussion paper series (132) pp.1-19, (2011).
	（10）H22〈論文〉「北海道の貯蓄投資バランスに関する考察」, 『商学討究』, 小樽商科大学, 第60巻第4号, 117-141頁(2010).
	（11）H21〈論文〉「長短金利の逆転に関する研究」, 北海道大学学位論文(博士), 1-103頁.
	（12）H17〈論文〉「1960年代アメリカ金融市場における長短金利の逆転現象について」, 『証券経済学会年報』, 証券経済学会, 40, 1-17頁.

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	神崎 稔章	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経済学）	職位	准教授
専門分野	金融論		

(13) H31<学会発表>「イギリスの産業発展と金融」, 信用理論研究会 (西南学院大学, 福岡, 2月).
(14) H30<学会発表>「自然災害の動向とリスクファイナンス」, 証券経済学会関西部会 (関西学院大学梅田キャンパス, 神崎稔章 (CA)・岡本隼輔, 9月).
(15) H29<その他発表>「自然災害とリスク金融」, SGCIME (東京, 3月).
(16) H28<学会発表>「自然災害と経済及び金融に関する考察—熊本地震を例に—」, 証券経済学会創立50周年記念大会 (明治大学, 神崎稔章 (CA)・岡本隼輔, 9月).
(17) H26<その他発表>「1860年代イギリス金融市場の特質」 (SGCIME, 東京, 8月).
(18) H25<学会発表>「域際収支と地域金融」, 日本金融学会北海道部会 (北海学園大学, 8月).
(19) H25 <その他発表>「1860年代イギリス金融市場における長短金利逆転現象について」 (日本証券経済研究所, 東京, 6月).
(20) H24<その他発表>「北海道を中心とする地域経済と地域金融」, 金融構造研究会 (全国地方銀行協会, 東京, 11月).
(21) H24 <学会発表> On the Behaviors on the Real Side and Financial Side in Hokkaido Prefecture (日本金融学会春季大会, 立正大学, 4月).
(22) H23 <学会発表>「地域経済の構造と課題—北海道の事例分析—」, 経済理論学会北海道部会 (北海学園大学, 8月).
(23) H22 <学会発表>「北海道のISバランスと金融機関の資金動向」, 進化経済学会 (小樽商科大学地域研究会との共同開催, 小樽商科大学サテライトオフィス, 2月).
(24) H19 <学会発表>「長短金利逆転現象再考—1970年代後半から1980年代前半のアメリカを例に—」, 証券経済学会秋季大会 (関西大学, 10月).
(25) H18 <学会発表>「長短金利逆転現象について—イギリス金融市場とアメリカ金融市場を例に—」, 日本金融学会歴史部会 (首都大学東京サテライトオフィス, 11月).
(26) H18 <学会発表>「アメリカ金融市場における長短金利の逆転現象に関する一考察」, 日本金融学会北海道部会 (北海学園大学, 10月).
(27) H15 <学会発表>「1960年代アメリカ金融市場における長短金利の逆転現象について」, 証券経済学会秋季大会 (神戸大学, 11月).
学会、所属団体における活動 (本年度を含む過去3年間の研究業績) R4・R5・R6
所属学会・所属団体 役職等と任期
日本金融学会、証券経済学会、進化経済学会、日本経済学会、信用理論研究会、中四国商経学会